

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの教育実践」	5年 外国語（9月） NEW HORIZON 5 Unit 4 He can bake bread well.
③言語活動の充実を目指した授業づくり	岐阜市立長良西小学校 上田 卓

## I 未来社会を切り拓く資質・能力

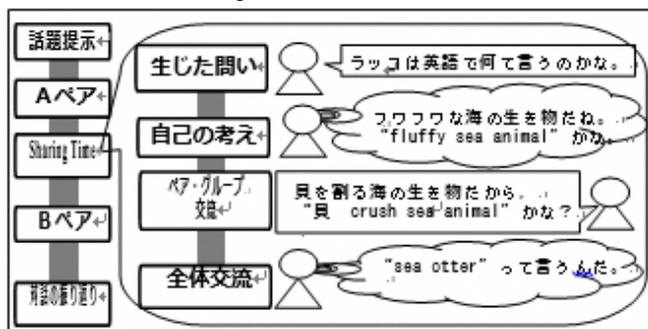
資質・能力の3つの柱で大切なことは、それぞれの前後につく言葉だと考えている。つまり、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」である。これらを意識して言語活動を行うことが、未来社会を切り拓く資質・能力の育成につながると捉え、実践を行っている。

## II 言語活動の実践事例（5年生）

### 1 Small Talk（生きて働く『知識・技能』の習得）

Small Talk は、資質・能力を育成するための大切な言語活動であると捉え、【図-1】のような流れで毎時間 S⇔S の対話活動を行っている。

【図-1】 Sharing Time を大切に Small Talk

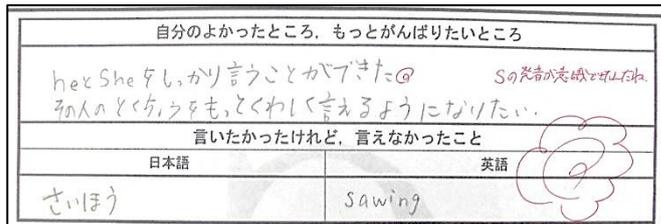


9月には全児童にタブレット端末が貸与されたことを受け、3人で Small Talk を行うようにした。2人が対話、1人が動画を撮影し、すべての対話が終わった後に、自



分の対話を視聴できるようにした。自分の対話を客観視でき、対話の向上に努めようとする姿が増えてきた。

新学習指導要領の三つの柱の修飾語句に着目したことで、三つの柱の内容をより明確にご理解された上田教諭のご実践です。小中連携の視点から中学校の即興的なやり取りにつなげるために、小学校外国語では、「その場で」やり取りして伝え合う力を身に付けることが求められています。そのためにも、本実践のように、毎時間にこまめな活動（例えば、Small Talk）で、話題に応じて既習語句や表現を常に引っ張り出して使い、単元終末では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて子供が目的を達成するために必要な語句や表現を取捨選択して活用できるよう言語活動を設定することが求められます。（文部科学省 視学官 直山 木綿子）



## 2 ミニパフォーマンス活動

（未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成）

NEW HORIZON 5 Unit 4 He can bake bread well. は、「身近な人を紹介しよう」という単元のゴールが設定されている。そこで、単元の終末において、即興でクラスメイトのことを紹介する言語活動を仕組んだ。具体的には、ローマ字で書かれたクラスメイトの名前を受け取り、その子のできること・できないことなどをその場で考えて伝える活動である。この活動を終えた児童の自己評価・感想は以下のようなものである。



1. 自分の身近な人や友達のことを can を使って紹介することができた。
2. これまで知らなかった仲間の情報を、英語で知ることができた。
3. 今日の授業の感想

ぼくは GOODY 反応で 先生 ABPA の人に ホームエゴミ袋などを 使って 伝えられたのでよかったです。 前の単元の学習にも使えて ほんとうに すごいです!!

このように、場面や状況を変えることで、既習表現を総動員して表現させる活動＝ミニパフォーマンス活動を単元の終末で行うことで、「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』が育成」されたと考えている。

## III 言語活動の充実⇔未来社会を切り拓く資質・能力

各単位時間の言語活動と単元を通して行う言語活動の双方を充実させることが未来社会を切り拓く資質・能力の育成につながると考え、今後も実践を進めていく。